

6A 病棟

看護師長 常久 幸恵

1. 病棟の具体的な目標と評価

1)総合周産期母子医療センターとして、安全で質の高い看護を提供する

産科の緊急時シミュレーションを5回計画、実施し、緊急帝王切開時のOP室準備もスタッフ全員が行えるようになった。また災害シミュレーションを机上で行い、災害時の病棟マニュアルが完成した。

2)BFH認定施設として、母乳育児10か条を遵守し母子にやさしい看護を提供する

令和3年度、BFHの認定は評価され継続となった。BFH認定30周年の節目を迎え、乳房センターを子育て支援センターに改名し、乳房以外の育児全般の支援も行える体制とした。さらに新型コロナウイルス感染症のため中止していた母親学級、育児サークルを、Webで再開することができた。母親学級代替のDVDも完成し、病棟・外来で個別指導時に使用している。しかし、Webでの参加人数は少なく、対面で指導していた時の参加状況まで戻っていない。集団指導の運用と両親学級の再開は今後の課題である。総分娩件数は減少しているが、母体の搬送件数は横ばいであり、帝王切開率も4割を超えてきている。その影響もあり、今年度の母乳率は、正常新生児の1か月健診時以外は減少した。

3)病院経営に参画する

空床病床の利用として、他科診療科を372件/年受け入れ、受け入れ可能な対象患者の幅を広げている。5Bからの転入は152件/年受け入れを行った。しかし、病床利用率は6割にとどまり、目標の8割に至っておらず、今後の課題である。

3)患者の視点に立った医療安全を推進する

COVID-19陽性妊婦の帝王切開術の実際をマニュアルに基づき、感染病棟、OP室、5B病棟、事務等と連携をとり、5名安全に実施でき、マニュアルの改訂も行った。COVID-19陽性妊婦が入院の際は、感染病棟と連携をとり、感染病棟看護師によるNSTモニターの装着、観察項目を明示し確認できるようにした。日中は助産師が感染病棟に出向き、状況の聞き取り、必要時病室に入り診察介助や患者の思いの確認等対応できる体制をとっている。帝王切開術を行った褥婦の育児支援も、本人の気持ちを大事にしながら、状況に合わせた育児支援を行うことができた。褥婦からも、母乳育児ができる喜びの言葉が得られ、感染病棟看護師・多職種と助産師の様々な連携した支援が実を結んでいる。

2. 病床運営状況

表1令和3年度 病床運営状況

看護単位	収容可能病床数(床)	診療科名	月平均		平均在院患者数(人)
			新入院患者数(人)	退院患者数(人)	
6A	46	産婦人科・乳腺甲状腺外科	60.9	98.6	27.4
MFICU	6	産科	8.1	0.3	4.0

看護単位	平均在院日数(日)	病床利用率(%)	病床稼働率(%)	重症加算病床		有料個室		死亡者数(人)
				病床数(床)	稼働率(%)	病床数(床)	稼働率(%)	
6A	10.4	59.6	66.6	2	55.9	4	90.1	4
MFICU	29.2	66.7	66.8					

3.看護体制

表2 令和3年度 看護体制

看護単位	配置人数(人)	看護方式	夜勤体制(準:深)
6A	34	PNS [®]	3:3
MFICU	14		2:2

4.看護統計

1) 重症度、医療・看護必要度

表3 令和3年度 一般病棟 重症度、医療・看護必要度Ⅱ

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
基準を満たす患者の割合(%)	43.1	38.4	32.6	41.0	25.1	45.0	44.7	37.6	27.1	31.0	35.2	43.0	35.7

2) 部署データ

表4 分娩件数、帝王切開件数と母体搬送件数の推移 表5 家族指導等(新型コロナウイルス感染症のためWeb開催)

	令和2年度	令和3年度
分娩件数	440件	377件
帝王切開件数(再掲)	176件	164件
緊急帝王切開件数(再掲)	99件	81件
母体搬送件数	94件	91件

母親学級参加人数(実施回数)	14人(13回/年)
両親学級参加人数(実施回数)	実績なし
わいわいサークル参加人数(実施回数)	9人(4回/年)
母親学級DVD受講回数(延回数)	145回/年

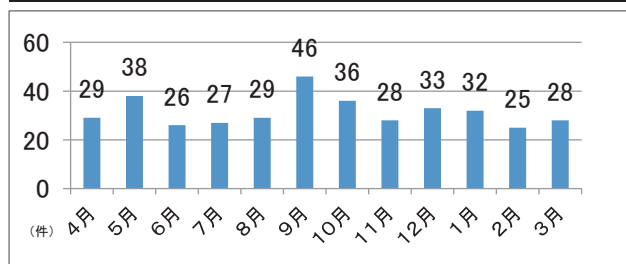


図1 令和3年度月別分娩数

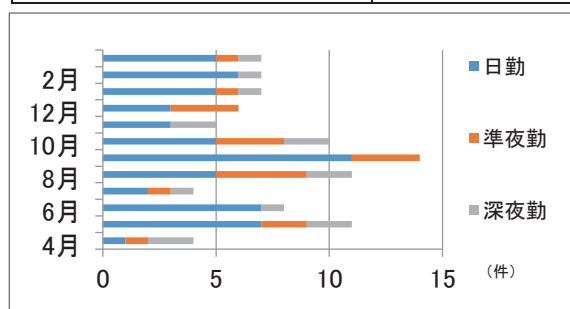


図2 令和3年度勤務別緊急帝王切開割合

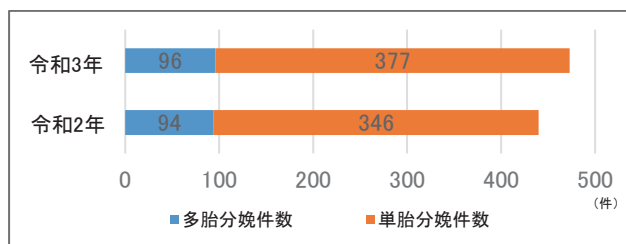


図3 多胎分娩・単胎分娩の件数

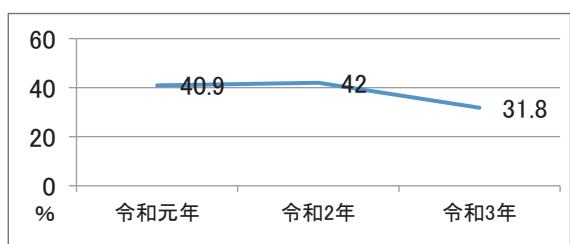


図4 高年齢出産率

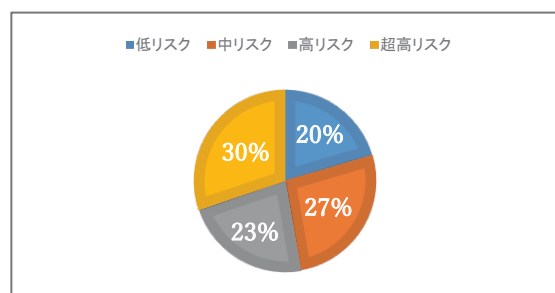


図5 令和3年度妊娠リスクスコア

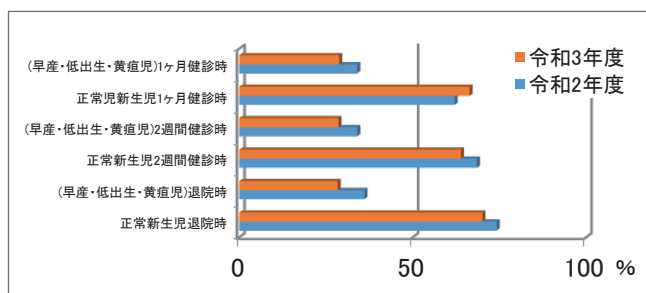


図6 正常新生児、早産児・低出生・黄疸時の母乳率